

先進事例 紹介

地域実情に合った新たな「渋消式」の構築

～活動査閲と部会の連携からみる人材育成～

群馬県 渋川広域消防本部

1 はじめに

渋川広域消防本部は、1市1町1村を管轄し、1署4分署を158名（条例定数165名）の職員が2交替制勤務で消防業務を遂行しています。

職員数や車両台数、水利の設置状況から見ても決して消防力が充実しているとは言えません。

当消防本部では、そうした地域性や、消防力等の実状を踏まえ、過去に発生したいくつかの一般建物火災での経験をきっかけに、管内で件数の多い「木造2階建て一般住宅」に的を絞り、「消防力の整備指針」や「消防水利の基準」、「消防に関する都市等級要綱」などを根拠とし、多くの検証や訓練、試行錯誤を重ね、独自の火災防ぎょ戦術を考案・確立しました。

少人数を余儀なくされる消防力や、次の災害出動への対応を考慮した少ない車両、少ない資機材での防ぎょ展開を行う無駄を省いた「現場での効率化」を図るため、場読みと呼ばれる戦術の組み方をはじめ、オリジナルのホースバッグを使用したホース延長などが火災の延焼・拡大を防ぐための早期放水を実現しています。

2 警防救助部会・救急部会の発足

早期の放水開始をもたらす火災防ぎょ戦術が確立された今、今後の課題として、様々な活動面における新たな「渋消式」の構築に向けた取り組みが進み始めました。

社会情勢の変化により、消防においても新たな知識や技術の普及や資機材も進化しており、消防本部によって管轄する地域を取り巻く環境や保有する消防力も様々です。

そのような背景から、当消防本部管内の地域性や消防力に合わせた各種活動基準の再考が必要であると考えました。

火災防ぎょにおいては、早期放水準備後の救助活動や消火要領に目を向け、またそういった一連の活動を効果的にするための状況評価の方法も迅速なホース延長と並行して行うために新たな戦術を試行しています。

さらには、火災防ぎょに限らず救助活動、救急活動においても当消防本部の実情に合った活動基準を構築する

ことで、あらゆる災害対応能力を向上させることができます。

そこで当消防本部では、新たな知識や技術のフィードバック、各種活動基準の作成、以前より実施している活動査閲の検討などを目的とし、「警防救助部会」、「救急部会」を発足させました。

部会には各所属から部会員を選出し、月1回のペースで部会を開催しています。

上述したように、現代ではインターネットやSNSの普及等により多くの情報が簡単に手に入るようになりました。すぐに知りたい情報が入手できるといったメリットがある一方で、情報が多すぎるために混乱を招く危険性もあります。消防においても、様々な研修や勉強会が各地で開催されており、参加した職員は新しい知識を手に入れることができます。しかし、その知識をどういった形で組織にフィードバックするのか。また、受け入れられるのかといった不安もあります。そうした課題を解消するために部会を開催し、職員が学んだ知識や技術をフィードバックする場とし、出席した部会員が各所属に持ち帰り、それを周知し、さらに検討していくという形を取っています。

このような形を取ることによって、新しい情報へのレスポンスが良くなり、当消防本部に見合った形で取り入れることによって混乱を防ぎ、さらに今までの技法を見直すことができ、再確認やアップデート、ブラッシュアップに繋がっています。

3 各種活動査閲の実施

当消防本部では、以前から消防長をはじめとする所属長を査閲者とし、「警防活動査閲」、「救急活動査閲」を実施しています。

これは1署4分署ある全所属を対象とし、警防活動査閲は2ヶ月に1回、火災や救助、救急PAなどあらゆる事案の想定内容を決め、対象所属による訓練を実施するものです。救急活動査閲は年1回とし、指導救急救命士がシナリオ作成と評価を行い、救急隊の質の向上や救急医療体制の強化に繋がっています。

活動は全て動画撮影をし、全署共通のサーバーをとおして供覧し、各所属で検討を行うとともに、個人の意見を書き込みをすることができるチャット式のファイルを作成し、自由にその活動に対する検討事項などを書き込みができるシステムを取っています。

このシステムを取り入れることで、誰もが自由に発言することができ、ありがちな検討を解消し、細かい気づきを発見することもできます。批判や厳しい意見が出ることもあります、それらが糧となり、更なる成長意欲の増進に繋がり、効果が上がると考えています。これら各所属での検討、チャット式による書き込みを基に、部会にて再度検討が行われ、当消防本部としての方向性をまとめ、修正しています。

4 おわりに

現在の取組をベースとし、火災防ぎょ戦術のみならず、渋川広域消防本部の活動基準としてあらゆる「渋消式」の確立を目指しています。

管轄内の実情に合わせた活動基準が、限られた消防力や予算の中における効率的・効果的な業務の遂行に繋がることと日々考えており、失敗を恐れず、新たな取組をしていくことで、職員の意識が変わり、組織がより良いものとなるのではないのでしょうか。

今後も地域住民の安心・安全のため、日々の業務に励んでいきたいと思っています。

平成30年度 警防活動査閲 想定内容

月	内容	想定のポイント
6月	木造2階建て 一般住宅 要救助者情報あり	屋内進入要領・進入管理方法の検討 現着後の状況評価の徹底と早期伝達・周知
9月	河川への車両転落事故 車両部署不能	低所救出における傷病者観察の徹底 救急隊との連携 各所属の救助対応能力の向上 各種資器材の取扱
11月	建物火災 内部活動中の隊員にアクシデントが発生し退出不能となったもの	隊員救出 検索方法、救出方法
12月	木造2階建て 一般住宅 2階に要救助者2名が取り残されている(成人、小児) 指揮隊遅延	先着隊1隊のみでの活動 限られた人員の中での早期救出

平成29年度 救急活動査閲 シナリオ一覧

※平成30年度は2月に実施

NO.	シナリオ	想定のポイント
1	【交通】20歳代 男性 バイクの転倒、単独事故	腹部負傷、臓器損傷疑い⇒早期現場離脱、三次対応
2	【自損行為】20歳代 男性 胸部刺創	臓器損傷症例⇒開放性気胸、三次対応
3	【急病】3ヶ月男児 呼吸困難	乳児CPA症例⇒早期現場離脱、乳児CPR
4	【労働災害】30歳代 男性 プレス機に挟まれたもの	重症手指症例⇒固定清潔処置、三次対応
5	【交通】20歳代 男性 二人乗りバイク、交通事故	トリアージ症例⇒優先順位、外傷処置
6	【急病】28歳 女性 妊娠40週 腹痛	経産婦出産症例⇒産科処置、経過観察
7	【一般負傷】50歳代 男性 食事中倒れたもの	窒息症例⇒早期異物除去、CPR
8	【急病】40歳代 男性 意識障害	処置拡大行為症例⇒低血糖時での対応
9	【急病】30歳 女性 妊娠40週 腹痛	経産婦出産症例⇒産科処置、経過観察
10	【労働災害】高所墜落事故 男性負傷者2名	トリアージ症例⇒処置優先順位の対応

警防救助部会・救急部会 活動イメージ

部会の内容

1. 研修会・勉強会のフィードバック
2. 新たな知識を含めた活動の再検討
3. 各種活動査閲の検討

- ・部会員が自所属でフィードバック
- ・所属ごとに課題等の検討
- ・チャットによる書き込み

所属での検討結果、チャットを基に
再度部会で検討

各所属
周知

活動基準
作成